

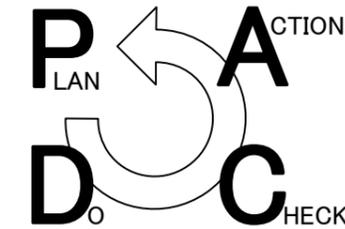
政策名	1グローバルロジスティクスの港	施策推進 責任者	企画調整室長
基本施策名	02ロジスティクスハブ機能の強化		
個別施策名	10臨海部道路ネットワークを充実する		

1. PLAN(目的・内容)

目的	サービスの対象者(誰のために)	港運、荷主、トラック事業者					
	サービスの対象物(何を)	名古屋港周辺の幹線道路、臨港道路					
	意図(どういう状態にしたいのか)	渋滞が緩和され、円滑に貨物輸送ができる					
内容	名古屋港周辺の幹線道路では、西部地区における交通量の増加により、慢性的な交通混雑が発生しています。また、臨港道路においては、コンテナターミナルを利用する大型トレーラーの渋滞が顕著となっています。このため、周辺の幹線道路ネットワークの構築や港内における交通混雑の緩和により円滑に貨物輸送ができるようにしていきます。						
目標	西部地区における主要交差点での渋滞緩和を図ります。	目標達成に影響する外的要因等 世界の景気動向による貨物量の増減					
成果指標名	単位	実績			目標	指標の説明(式)	
		H19年度	H20年度	H21年度	H24年度		
桜木大橋北交差点の渋滞長(北向き)	実績目標	m	590	-	420	250	・目標値は1回の青信号の通行量から設定 ・達成率はH19年度値を基準とした目標値に対する解消率
	達成率	%	-	-	50.0		
桜木大橋北交差点の渋滞長(東向き)	実績目標	m	420	-	280	210	
	達成率	%	-	-	66.7		
桶1交差点の渋滞長	実績目標	m	550	-	150	120	
	達成率	%	-	-	93.0		

4. ACTION(取組)

取組の方向性			
成果	拡大		○
	維持		
	縮小		
		縮小	維持
		コスト	
判断の理由			
経済の回復に伴い、貨物量が増加する見込みのため、事業の着実な実施によって成果の拡大を図っていく必要があるため。			



3. CHECK(個別施策の実現に向けた今後の展開方向)

現状における課題認識	
<ul style="list-style-type: none"> <li>道路ネットワーク計画の策定(港湾計画の策定)については、世界同時不況により取扱貨物量の動向を見極めていたため、成果の目標を達成しておらず、進捗が遅れています。</li> </ul>	
構成事務事業の適正性 (事務事業の構成内容の妥当性)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>広域幹線道路網整備の支援は、成果が間接的すぎるため、本組合の施策評価対象からは除外して今後の支援を継続するのが妥当です。</li> </ul>	
今後の展開方向 (新規事業の創出、事務事業の見直し等)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>広域幹線道路網整備の支援は、行政評価の評価対象の事務事業以外の活動として早期完成に向けて関係機関と連携し進めていきます。</li> <li>鍋田ふ頭道路(進入)整備事業は、世界同時不況により地方財政が厳しい状況にありますが、着実に推進していきます。</li> </ul>	

2. DO(個別施策を構成する事務事業の今後の方向性)

重点化	事務事業名(コード)	事務事業の概要	主な成果指標 又は活動指標 (単位)	成果・事業費(千円・人件費込)				目標値 (目標年度)	21年度 末までの 状況	今後の方向性		備考 (判断の理由等)
				H19年度	H20年度	H21年度	H22年度			事務事業 の 方向性	取組の方向性	
				実績		目標						
決算額		決算見込額		予算額								
	道路ネットワーク計画の策定(港湾計画の策定)(1021001)	交通のボトルネックの解消や、コンテナ貨物の増加による港湾関連車両の分散化など、既存施設の有効活用を含めた効率的な道路ネットワーク体系の調査・検討を行います。	策定進捗率(%)(上段:単年度、下段:累計)	20 20	6 26	4 30	40 70	100 (H23)	遅れ	継続	➡ ➡	物流の環境変化に対応した港湾のマスタープランである港湾計画の改訂に向けて着実に準備するため必要があるため。
	広域幹線道路網整備の支援(1021002)	関係機関と連携し、国への要望活動に参加します。	要望道路の事業化(件)	0 1,216	1 1,228	0 1,201	- 966	- 継続事業	順調	休廃止	➡	今後も支援業務は継続していくものの、成果が間接的すぎることから、本組合の評価対象にはふさわしいとはいえないため。
	飛鳥ふ頭道路(改良)整備事業(1021003)	円滑な車両走行を確保するとともに飛鳥ふ頭へのアクセスの定時性を確保するため、臨港道路を整備します。	事業進捗率(%)	99.8 28,000	100.0 38,000			100 (H20)	完了			
○	鍋田ふ頭道路(進入)整備事業(1021004)	鍋田ふ頭における物流の効率化を図るため、臨港道路を整備します。 整備内容:道路整備(延長2.3km、幅員3.5m×4車線)	事業進捗率(%)(上段:単年度、下段:累計)	6.0 27.3 465,600	5.6 32.9 436,500	5.3 38.2 414,000	5.7 43.9 446,843	100 (H27)	順調	継続	➡ ➡	貨物量の増加に伴い交通量が増加しているため。
			施策コスト(事業費合計)	497,422	478,359	416,917	450,442					

注)事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。

注)目標値欄の「継続事業」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は、原則としてH24年度の中間目標として設定しています。